

令和7年度第4回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 令和8年2月9日(月) 午前9時30分～午前10時30分

2 場所 秋田市役所5階 第3・第4委員会室

3 出席者

(1) 委員(9人) ※委任状 1名

奥山順子委員、水澤聡委員、加藤敏委員、佐々木信光委員、佐々木亮次委員、
淡路ひろ子委員、鶴田悦子委員、西村吉隆委員、吉野陽子委員

(2) 事務局

牧野子ども総務課長、長谷川子ども育成課長、石川子ども福祉課長、
新田子ども健康課長、加藤子育て相談支援課長、中安学事課長、
武石学校教育課課長補佐ほか関係職員

4 傍聴者 なし

5 会議の内容

- 開 会
- 議 事

(1) (仮称)秋田市こども計画(修正案)について

(2) 教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策の変
更について

(3) その他

- 閉 会

6 議事要旨

奥山会長	議事(1) (仮称)秋田市こども計画(修正案)について、事務局より説明を求めます。
	<事務局説明>
奥山会長	ただ今の説明に対し、質問や意見はありますか。
水澤副会長	1点目は、最終的には議会の審議を経るのしょうけども、例えば110ページに7年度の事業を記載しておりますが、この中で、8

	<p>年度に向けて大きく変わるようなところがあるのかどうか、既に議会の方へ提案している内容があると思いますので、その内容について、何か大きな変更があればお知らせいただきたい。</p> <p>それから2点目は、109ページの施策の方向性で、上は保育園で下は学校という記載なのでしょうか。上の方は給食の完全無償化を順次ということですので、どれぐらいのスケジュール感なのかということと、下の方は学校給食費は一部を支援ということで、これは完全無償化は目標になっていないのでしょうかということ。</p> <p>3点目は30ページの目標ですが、この医療費・保育料・給食費の無償化を、目標設定とすることはできないのでしょうかということ。この3点でございます。</p>
<p>牧野子ども総務課長</p>	<p>まず1つ目の110ページの記載の件についてです。</p> <p>来年度当初予算の概要を議会の方にお示ししております、この後審議をしていただいて議決ということになるのですが、今こちらに記載している事業については大きく変更するものはございません。</p> <p>ただ一部手法について変更するものなどはございまして、在宅子育てサポート事業は一部修正をすることになっております。</p> <p>109ページの政策の方向性のスケジュール感ですが、こちらは市長公約になっている事項でして、市長の任期中に順次実施したいということでありますが、何年度という具体的なところまでは至っておりません。</p>
<p>中安学事課長</p>	<p>先ほどお話しがありました109ページの施策の方向性の1つ目の給食費の無償化に関しましては、小学校給食費について、現在、国の制度等を活用して、保護者の負担を求めない形での準備を進めているところです。</p> <p>また、施策の方向性の2つ目の下段ですが、現在も給食費の一部を補助しております。その部分は継続して負担軽減を図っていくという趣旨で2段としているところです。</p>
<p>石川子ども福祉課長</p>	<p>30ページの目標値について、子ども福祉医療制度の無償化を目指して取り組んでおりますが、この目標値については先ほど総務課長がお話したとおり、市長の公約で任期中に順次ということになっております。</p> <p>ただし、無償化にはかなり大きな予算が必要になることから、今回はこの目標値には定めず、財政的な状況の見通しが立った時点で実施したいと考えております。</p>

よろしいでしょうか。
それでは他の委員からご質問等ございませんでしょうか。

私からになります。23ページの基本理念の文言についてです。

「すべてのこども・若者が、夢に向かって健やかに成長し、心の豊かさと希望を実感できるまち」ということで、私もいろいろなどの発表されているこども計画を調べてみたのですが、前回の質問にあった「まち」というのは使われてるところが大変多く、その自治体としての目標というふうに読み取ったのですが、前回、こどもが時代を生きるということが大事で、その夢に向かって何か将来の目標に向かうということだけが強調されるのはどうなんだろうというような発言をしたと思うのですが、やはりこの「夢に向かって」という言葉が少し気になっていて、この言葉自体、ここに込められている願いに対して否定的な思いは全然持っていないですし、こどもには夢を抱いてそちらに向かって生きていけばいいなどは強く思います。ただ、今のこども・若者たちがこの「夢」という言葉にどういう思いを抱いているかというと、少なからぬこどもや大人が、夢は夢だからと考えているようです。実現可能性とかを考えないで夢を抱いてほしいと思ったりもするんですけども、もちろん、こどもの年齢にもよりますが、その一方で「夢を持つ」というときに、進路希望とか職業選択と直結して「夢を持つ」というふうに語られていることが多いような気がしていて、調査でも4分の1以上のこどもたちが夢を持ってないみたいなことを言っていたりします。

少なからぬこどもたちが、夢を持つと周りから言われることにちょっとストレスフルな感情を抱いているようなところも感じられて、因みに、こども家庭庁のホームページを見ると、「こどもの皆さんへ」というところがあって、その中の「僕私あるある」というところで、こどもたちのその疑問とか悩みとか思っていることの1つに夢を持つって言われるけれど…という欄があって、そういうことなんだろうなど。

ただそこには、深刻に考えないで好きなことや自分にとって大事なものを大切にしていけることがいいんだよ、みたいなアドバイスが書かれています。夢を持つことには否定的ではないので、この中身は県のこども計画でも国のこども大綱でも、内容の方にそういう文言は要所要所に出てくるのですが、何かこのキャッチフレーズみたいな、こどもたちがこの言葉をどういうふうに読むのかなということがちょっと気にかかりました。だから、この内容の方に書か

	<p>れていることに、夢を持つとか夢を抱くとか描くとか、そういうことはどんどんして欲しいし、むしろその4分の1ぐらいの子供が夢を持ってないという状況であれば、そういう願いも出てくるだろうなと思うのですが、こどもたちがこの言葉を読んでどう思うのかなというのがちょっと気になるということで、私だけの気がかりなのかどうなのか。皆さんのご意見を伺いたいなと思って発言させていただきましたが、どうでしょうか。</p>
鶴田委員	<p>私もちょっと引っかかって、基本理念の説明文にはあるからいいのかなと思ったのですが、全てのこども・若者が、やはり「個性や多様性を尊重し」等の文言を入れてもらえれば、その子らしく、自分らしさをその子が持っていけるというような、こども自身が先の見通しが立てるのかなってとったりもしたのですが、みんながいいというのであればいいのかなとしたりもしていました。</p>
奥山会長	<p>ありがとうございます。他の皆さんはいかがでしょうか。お願いします。</p>
吉野委員	<p>「夢に向かって」の文言が使われた趣旨や意図が、経済的なことなどで諦めないように、そういう支援を市としてやっていかれるのかなという意味合いで私はとらえたので、あまり違和感なく実は読めました。</p> <p>就職支援の仕事をしていて、経済的なことで思いがある方が、やはり自分のやりたいことをそもそも描けないというのを見てきているので、何かそういう意味合いなのかなと捉えると、納得はしていました。</p> <p>ただ、奥山会長がおっしゃっているのもすごくよくわかって、やりたいことがわからない子たちの話をよく聞いているので、どういう形でアプローチしてるかということ、幼稚園や小学校の頃何が好きだったかって聞くんですよね。そのとき何に夢中だったか、何をやってるときが楽しかったっていう話を聞くんです。</p> <p>そのときに好きだったことや、夢中になれていたことが将来の進路に繋がってくることはよくあって、会長がおっしゃっているように、将来のこととは関係なく、ただ夢中になってやるというようなことの大事さもわかるので、言葉自体はすんなりは見えたのですが、会長のおっしゃることもわかるなという、あまり答えになっていないのですが、そのように思いました。</p>
加藤委員	<p>こどもというのがどの辺の年齢なのかなというのがありますよね。</p>

例えば幼稚園の場合、誕生会や卒園式で将来何になりたいと聞くと、仮面ライダーになりたいと言う子どもも結構いるし、そういうのが夢なのか、あるいは夢っていうのは、実際ある程度年齢を重ねた中で、初めてイメージが湧いてきて、それに向かって一生懸命頑張っていくというところがあるので、会長が言われるように、全ての子ども・若者が夢に向かってというようにみんな生きてるわけではないのかなと。みんな自分らしいだとか好きなことは遊ぶことだとか、幼稚園の場合ほとんかく遊びが中心なので、そうやって好きな遊びあるいは人と関わっていくことがまず基本ですよ。

いろいろな人との環境の中で育っていくという意味でいうと、言われてみるとちょっと硬いかなっていう感じで、小さい子には違和感があるかなと思いますが、どういうふうに基本理念に入れるかというのとはなかなか難しいかなとも思います。

これはこれで基本理念の下の文にいろいろ書いてあるのでいいのかなと思いますけども、会長のおっしゃることはよくわかります。

佐々木亮次委員

会長のおっしゃった夢に関する考え方というのはそうだなというふうに思います。

私は小さい子どもを見てるわけではなくて、中学生とか高校生とかぐらいの人が多いのですが、ある心理検査に夢を見たことがありますとかいう質問があって、見たことがないっていう高校生がいます。それは睡眠中の夢という意味もあるし、ここで言う将来・未来の夢みたいなものも重なった問いかけで、夢を見たことがないという子がいるのでちょっとびっくりすることもあります。具体的な希望や将来の夢というとなかなか難しいなと思います。確かに抽象的な夢というよりも、もうちょっとはっきりしたものを求める傾向があるかなと思っているのですが、高校生だけでなく、大人でさえ夢はあるのかと問われると、どうだろうというふうに思うような時代ですので、だからこそ逆に、私の個人的な考えですけど、夢ってやはり抽象的なものというか、明るい未来のようなイメージというか、その程度でいいのかなと思います。その中でいろいろな人たちがいて、そういう雰囲気のような、包むようなイメージがあって、その中で「みんなでやってみよう」、「そういうものを提供するまちになりましょう」ということであればすごくこの文言はよいのではないかと、妥当なのではないかな、と私は感じました。

奥山会長

私も夢に向かう、抱く、描く、持つ、下につく言葉がたくさんあると思うのですが、多分私が引かかっているのは「向かう」の方だと思うのです。先ほども言ったように、何か目標的なイメージにな

	<p>ってしまうのかなと思って。そんなに変わらないですかね。抱くとか向かうと描くとか、どうなんでしょう、こだわり過ぎですかね。いかがでしょうか。</p>
水澤副会長	<p>夢を描いて、それに向かって、と。確かに難しいですよ。</p> <p>これまであまり深く考えてみませんでしたが、会長のお話を聞いてもう一度よくよくこの下の方の文章を見てみると、計画の趣旨からいくと、「夢に向かって」というより最後にある「自分らしく輝き」という、多分ここがこの計画のポイントなのかなと思います。言葉とするとこの辺の言葉が入ってきた方が、計画の理念としては、もしかしたらふさわしいのかなと。ちょっとそんな感想を抱きました。</p>
奥山会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ここを読むとすごく納得するので、今後これがどのようにになっていくかわからないのですが、この短いフレーズだからこそ、この後ここだけが他のところで使われたりするようなことがあるとすれば、どうなのかなと。</p> <p>多分、こどもの目に触れるとすれば、そこなんだろうと思うし、先ほど佐々木委員からお話があったように、今のこどもの現状を考えれば、こどもが夢を持てるように、また、夢を描けるようなこどもであってほしいという願いもこちらは強く持つというのもあるし、難しいですね。</p> <p>先ほどの鶴田委員の、1人1人の多様性を生かしてみたいなのもあるし、何か余所のものを見ると、例えば、「1人1人のよさや可能性を発揮して」とか「生かして」というような表現がされているところもありましたし、基本理念の下に「夢や希望を温かく見守り」とか「自分らしく輝き」云々という文言があるので、もしかするとここを「すべてのこども・若者」、0歳から18歳までの全てのことですよ、「が健やかに」とかあるいは「心豊かで健やかに成長し、希望を実感できるまち」などというふうにコンパクトにまとめてもよいのではと思ったり、先ほど言った「一人ひとりが」というようなところが入ってもいいのかなと思ったりもしますが、どうでしょうか。</p>
牧野子ども総務課長	<p>こちらの基本理念、そもそも何のために設定するものかといいますと、秋田市がこの計画の内容に取り組むことによって目指す姿をお示ししたいということで、一番初めに奥山会長からもありましたけれども、最後が「まち」となっているのは、秋田市として最終的</p>

	<p>にこういったまちを目指したいという意味でお示しするものです。</p> <p>今回はこども計画ですので、当事者であるこどもたちにもわかっていただきたいと考えておりますし、この計画そのものはなかなか難しいので、それをこどもの場合に落としたものでお示しして共有していきたいと考えております。そういう意味からしますと、当事者である方に少し違和感を感じるような表現であると、秋田市が目指しているものが共有できないということにもなりかねませんので、今、皆さんからいただきました意見を踏まえまして、再度、市の内部で検討したいと思えます。</p>
奥山会長	再度ご検討くださるということですがこれに関して、他の委員、ご発言なかった委員の皆さんはよろしいですか。
	<質問・意見なし>
奥山会長	では、その他の部分でご意見ご質問ございましたらお願いいたします。
西村委員	<p>目標値の設定の部分でどういった考え方なのかなというところを確認させていただきたいのですが、28ページからの「(3) 計画の指標と数値目標」について、全て令和11年度の目標値の記載があるようです。</p> <p>29ページの基本目標2のNo. 18、No. 19あるいは30ページの基本目標4のNo. 7など、高校生の県内就職の割合とか、県内の就職後の離職率そして育児休業の取得率とかこういった部分が若干労働局の方にも関連してくる指標かなと見ていたところなんですけど、この11年度の目標値に関してはどういったところから目標ができていたのかなと、わかる範囲で教えてもらえればありがたいのですが。</p>
牧野子ども総務課長	申し訳ありません。本日こちらの担当課になっております企業立地雇用課が同席しておりませんので、こちらの根拠については、後ほど確認してお答え差し上げたいと思えます。
奥山会長	<p>他にご意見ご質問等ございませんでしょうか？</p> <p>1つ確認ですが、現在作成中となって空欄になっている部分はいつを目処にできるのでしょうか。</p>
牧野子ども総	具体的な取り組みにつきましては、現在お載せしております内容

務課長	<p>が子ども・子育て未来プランに掲載している事業となっております。作成中となっているところにつきましては、この後、2月議会で審議される予算案から、関連するものを議決を経た後に調整をして掲載するという考えであります。</p>
水澤副会長	<p>確認です。先ほど学校給食費で国の方針があるということでしたが、そういった国の方針があるものはなかなか書きにくいのかもかもしれませんが、今後予定があって計画に書き込めるのであれば書いた方がいいのかなど。国の方針の動向を注視しながら完全無償化ということなので書きにくいのかもかもしれませんが、その国の方針をどこまで計画に書き込むかということなんですけれども、その点どうなんでしょうかというのが1点。</p> <p>あと先日、来年度の市の予算概要が発表されたようです。かなりの事業を廃止、見直したという記述があったと発表がありましたが、この計画の中に書き込んでいるもので見直しになるものはないのですよね、という確認です。</p>
中安学事課長	<p>給食費に関してですが、今回国の方で示されました制度につきましては、国県から補助をいただくような形になっております。実際、現状の秋田市の給食費と比較した際に、どうしても差額が出てしまうという状況でして、その差額につきまして、保護者の負担を求めない形でできるかということをしている段階です。また、国からもその具体的なその指針というかガイドラインが示されていない状況の中で、今この時点で、給食無償化ができる、完全無償化になる、ということがどうしても言える段階ではないということをご理解いただきたいと思います。と思っています。</p> <p>いずれにしましても、我々としましては、やはり保護者の負担軽減に繋がるような形で取り組んでまいりたいと今やっておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
牧野子ども総務課長	<p>先日公表しておりました来年度に向けた見直しの件になりますけれども、現在掲載しているものにつきましては廃止になる予定のものとは掲載しておりません。</p> <p>見直しにつきましても、事業の一部の手法を見直すとか経費を見直すというものがございますので、中にはそういったものが含まれておりますけれども、事業自体の実施については来年度以降実施するものをお載せしている状況です。</p>
奥山会長	<p>前回の会議で細切れというか縦割りというか、それぞれ対応する</p>

	<p>というよりは、もっといろいろなところで繋がりのあるところを関連付けてというように考えていけばいろいろ課題への対応も可能性が広がるんじゃないかというような意見がいくつか出ていたと思うのですけれども、今回いじめと不登校を分けて計画したということですが、例えば不登校にもいろんなケースがあると思いますし、年代によっても違うと思うのですけれども、保護者の生活、就労への影響とか、そういうことに関しての実態把握とか対応というのは、何か今後の方向として考えられているのかどうか、質問させていただきます。</p>
<p>学校教育課 武石課長補佐</p>	<p>不登校に関わる保護者の悩み事については、学校が窓口になりますが、教育研究所の相談電話や学校教育課も、保護者の方と話すことがあります。</p> <p>その中でどうしてもお子さんの支援のために仕事になかなか就けなかったりという情報はありますが、不登校の保護者を対象とした座談会などを行いながら、保護者の悩みや不安について伺っております。</p> <p>就労に関しては具体的などころまでは話が進まないこともあるので、市の機関などを紹介するなど保護者支援を行っております。</p>
<p>奥山会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>家庭への支援、連携はすごく重要な部分だと思いますので、今後そういう実態把握も含めてぜひ方向として考えていただきたいですし、なかなか仕事を休めない、休めないから辞めざるを得ないということもあると思います。これは働き方の問題とも関わってくると思いますので、学校だけで完結するのではない、何かがあるのではないかなと感じていますのでご検討いただければと思います。</p> <p>他にはよろしいでしょうか？</p>
	<p><質問・意見なし></p>
<p>奥山会長</p>	<p>それでは次に進めさせていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>もし何かありましたら、最後にまたご意見を伺わせていただきたいと思います。</p> <p>では議事の(2) 教育・保育および地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策の変更について事務局からご説明をお願いいたします。</p>

	<事務局説明>
奥山会長	ただ今の説明に対し、質問や意見はありますか。
	<質問・意見なし>
奥山会長	それでは次に議事の(3) その他というところで、事務局から何かございますでしょうか。
	<事務局説明>
奥山会長	それでは、委員の皆様からその他、この機会にご発言のある方がいらっしゃいましたらお願いいたします。
鶴田委員	<p>ちょっと気になることが1つあります。31ページの現状と課題のところ、国の調査で、学校で権利を学ぶ時間を作る、次に先生などこともと関わる大人がこどもの権利について学ぶ時間を作る、というものが結構多かったところがあり、いいなと思っています。</p> <p>市では道徳推進教員を中心として道徳教育をする中で、人権教育をしていくということが書かれております。とてもいいなと思うのですが、35ページの施策の方向性で、こどもが権利の主体であることの周知と人権教育の推進と家庭や地域との連携の中で、私としては、道徳教育というのがすごく前面に出ていて、「人権教育の推進」と手前の表題に出ているのですが、何か取ってつけたような感じがして、申し訳ないんですが、「全教育活動を通じた人権を含む道徳教育の推進を図ります」という文言があるんですけども、「こどもを中心とした人権」を出すような文言にできればいいのではないかなという感じがしました。例えば、「人権教育については何々の道徳教育の中で行う」とか、もう少し主語を「こどもの人権の学習について」など文言をここの部分で直すようなことはできるのでしょうかね、と。そういう感想です。</p>
学校教育課 武石課長補佐	今のご意見を伺いまして、もう一度検討させてもらってもよろしいでしょうか。
奥山会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>道徳教育を中心にして、全てのこどもが尊重され、多様性を認め合うような雰囲気や文化を作っていくということが大事なわけです。</p>

から、その核となっているのが、学校では道徳教育を中心に行う、
というような意味合いと思うのですけれども、ご検討いただくとい
うことですので、よろしくお願ひいたします。

他にはございませんでしょうか。

これは私の、もっともっと先の、今すぐではない願ひなので
が、先ほどの「夢」を調べるために、あちこちのこども計画を検索
して見ていたのですけれども、秋田市では調査を行うなどこどもの
声を聞いてやっているのですけれども、一部の自治体では、計画の
作成自体に大学生が加わっていて、若者が積極的に参加することも
なされていると、私も初めて気がつきました。全体の方向として、
こども基本法でも児童の権利条約でもこどもの声を聞くというこ
とが1つの柱になっているわけですので、実際にいろいろな事業を通
して、こどもたちの声が直接届くような、あるいはもっと積極的な
参加・参画ができるようなことも模索していただきたいなと
いう希望です。

他にはよろしいでしょうか。ご意見等ございませんか。

<質問・意見なし>

奥山会長

これをもって議事を終了します。